

平成31年度の

まちづくり

重点政策と予算状況

一年間のまちづくりの方針を示すのが町政執行方針です。

そして、それを実行するために必要なのが予算です。

その内容を審議する町議会第1回定例会が3月6日から14日まで開かれ、予算案などが議決されました。

今月号では、若狭靖町長が初日に行った町政執行方針、酒井裕之教育長が行った教育行政執行方針、そして平成31年度予算の概要をお知らせします。



はじめに

平成31年厚岸町議会第1回定例会の開会に当たり、町政執行に関する私の所信を申し上げます。

本年は、『平成』という時代が幕を閉じ、新しい時代を迎える節目の年になります。本町の『平成』のスタートは、捕鯨船をイメージした現在の役場庁舎などの落成式の挙行から始まりました。

一方、大きな自然災害が相次ぎ、日本列島に甚大な被害をもたらした時代でもありました。本町では、震度5以上の地震だけでも、平成5年の釧路沖地震、平成6年の北海道東方沖地震、平成15年の十勝沖地震、平成16年と17年の釧路沖地震があり、平成23年の東日本大震災では、約2・7mの津波の来襲により、カキの養殖施設やアサリ島が損壊し、北海道の中でも最も大きな被害を受けたところでした。

また、昨年発生した北海道胆振東部地震は、道内全域が停電する『ブラックアウト』という未曾有の事態を引き起こしました。

私は、幾多の難局を克服し、今、厚岸町が全国から注目されるまでに発展を続けていることは、町民の皆さんが心一つにして、郷土愛に燃えた『厚岸力』の賜物であり、改めて、町民の皆さん、そして町議会議員の

皆さんに、感謝と敬意を表するところ です。

そして、私が平成13年7月13日に厚岸町長に就任し、新しい時代を迎える本年は、私が平成29年7月に5期目の町政を担わせていただいたから、折り返しの年でもあり、愛する郷土厚岸町の新しい時代を築き上げるという、使命と責任を強く心に刻みながら、全身全霊で職務に邁進する所存です。

町政に臨む基本姿勢

厚岸町は、今、国内外から注目を集める厚岸蒸溜所の『厚岸ウイスキー』の本格出荷と国による衛生管理型漁港施設の整備完成に伴う厚岸地方卸売市場の移転を2020年に控え、さらには、北海道横断自動車道『厚岸町尾幌・糸魚沢間』の新規事業化と厚岸道立自然公園の国定公園化に向けての動きが加速されるなど、今後のまちづくりにとって大きなチャンスを迎えようとしています。

このチャンスを、厚岸町の未来を切り拓く絶好の機会と捉え、『もっと豊かな、もっと元気なあつけし』の実現のため、勇気と誇りをもって取り組みます。

本年度は、計画期間の最終年度を迎える『第5期厚岸町総合計画・後期行動計画』と『厚岸町未来創生総合